

2-6. 今年度の成果と今後の課題

令和5年度調査で挙げられていた課題と方向性について、本調査における成果と今後の課題を以下に再整理する。

項目（令和6年度調査）	令和5年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和6年度取り組み方針	本調査における成果	今後の課題
普天間飛行場の跡地内の地権者への取り組み	若手の会定例会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ●段階的な組織の強化・再編を検討する。 ・若手の会は、地主会の呼び掛けで発足したという、主体的な活動の原点回帰を図るため、その検討プロセスを見直す。 ・具体的には、若手の会定例会の場だけで事務局からの提案を受けて検討するのではなく、地主会三役や評議員・対策委員、若手の会会長・副会長との代表会合の場を複数回設け、そこから主体的な意見交換や討議を引き出す。そして、その結果を、若手の会定例会において報告し、承認を得ることができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●若手の会の再構築プラン（案）の立案・確認 ・地権者等の意向を醸成するための核となる地権者組織を再構築するプランの立案・確認ができた。 ・再構築にあたっては、若手の会の活動内容を総点検し、会の目的や会の位置づけなど組織づくりから見直すことが報告・承認された。 ・具体的な再構築プラン（案）は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・地主会、若手の会双方から構成する会議体を設置し、そこで討議しながら、活動指針となる新たな会則づくりを主体的に取り組めるようにする。 ・会則づくりでは、跡地利用の事業を事業施行者（事業主体者）とともに進め、事業完了後のまちづくりは、地権者及び住民等が主体となって育むものであるという考えに対する意見交換から討議を始める。 ・討議については、地主会の評議員・対策委員、若手の会の定例会において、報告・承認を得ながら進める。 ●効果的な意見収集による各種会議の円滑な運営 ・定例会において、地権者意見交換会及び第2回勉強会の実施について、事前に概要を説明し、進め方やテーマに対し地権者側の立場としての意見を伺うことで、その後の各会の円滑な運営に繋げていくことができた。同様に、勉強会及び地権者意見交換会開催後にも意見を伺い、会の運営にあたっての課題や対策を明確にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地権者等の意向醸成の核となる地権者組織再構築の実現に向けて ・若手の会の再構築プランの実現にあたっては、地主会、若手の会双方からの委員選出等、会議体制の構築について地主会・若手の会が連携して主体的に取り組めるよう、事務局が支援する必要がある。 ・会則づくりにおいては、若手の会が事業完了後のまちづくりの主体者となることを見据え、継続的に活動できる内容とする必要があることから、新たに設置される会議体における議題の進め方には十分留意する。
	フィールドワークの企画・開催	<ul style="list-style-type: none"> ●周知及び参加者の取込みについて ・地権者意見交換会で告知を行い、若手の会8名、普天間飛行場の地権者7名の参加があった。より多くの方に参加していただけるよう周知方法について工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地権者意見交換会前後に開催し、跡地利用に対する継続的な地権者の興味を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●官民連携による拠点形成の必要性 ・子どもから高齢者までが楽しめる憩いの場や、地域住民にとって防災拠点となる大型商業施設を併設した施設を訪れることで、官民連携による拠点形成の必要性について学ぶことができた。 ●返還前の地権者合意形成の重要性 ・返還まで日米共同使用されている口ウワー・プラザ緑地ひろばを視察し、地権者会の設立や組合設立に向けた現状について話を伺うことで、跡地の早期開発に向け地権者合意形成を図り、返還後すぐに開発に取り掛かることができるよう、事業準備を行うことの重要性について学ぶことができた。

項目（令和6年度調査）	令和5年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和6年度取り組み方針	本調査における成果	今後の課題
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">普天間飛行場の跡地内の地権者への取り組み</p>	<p style="text-align: center;">—</p>	<p>●跡地利用計画や事業手法等、返還後のまちづくりを進めていくための基礎的な知識の習得を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地権者が「当事者意識を持って跡地利用について考える」ことを促す。 ・具体的には、跡地利用計画及び土地区画整理事業に関する勉強会を開催し、今後の事業に関する基礎的な知識の習得を図るとともに、自身の土地活用に対する興味関心を高めることをねらいとして実施する。 	<p>●跡地利用に関する当事者意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地番図を用いて自身の所有している土地の位置を確認することで、当事者意識を持ちながら将来のまちをイメージすることができた。 ・経験豊富な専門家が講師となり、実例を交えたセッション形式による勉強会を行うことで、これまでの取り組みよりも分かりやすく参加者の土地区画整理事業に関する知識習得に繋げることができた。 	<p>●当事者意識を持つ地権者の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返還時期が未定であることが、地権者の興味や関心の向上になかなか繋がらない要因の一つと考えられる。そのため、返還に向けた動きが加速していることを認識してもらい、自身の土地活用を検討する時期に差し掛かっていることを分かりやすく伝える等、継続して当事者意識を持つ地権者を広げていくよう働きかける必要がある。 <p>●参加者数を増やす工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回、第3回は、ふるさと第59号で周知を行うことで、参加者は事前にスケジュールを組みやすくなったが、周知から開催日までの間で効果が薄れることも考えられる。そのため、開催日前には連絡先・メール等を利用し再度案内を行う等の工夫が必要と考える。 ・参加者数の増加に向け、周知段階で参加するメリット等をうまく伝えるとともに、興味が沸く勉強会テーマを設定する必要がある。 <p>●勉強会の内容と進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げるテーマについては、土地区画整理事業の減歩や換地といった事業の特徴に関する内容であったため、土地区画整理事業に対する体系的な知識習得が十分にできなかった部分がある。そのため、各回で取り扱うテーマについては段階を踏んで知識の向上を図ることができるよう、整理する必要がある。 ・質問することに抵抗を感じる参加者に対して、個別の質問を受け付ける時間や場を設けるなど、対応が必要である。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">普天間飛行場の跡地内の地権者及び跡地周辺の市民への取り組み</p>	<p>●沖縄国際大学とのコラボについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降継続して演習授業を活用した取り組みを行う。 ・演習授業実施の際にはコンサルが各回に出席してグループワークのサポートをすることが望ましい。 <p>●今後の計画づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動の実践に繋がるよう、学生を始めまちづくり活動の担い手の受け皿となる組織（場）づくりに向けて2～3年程度の計画を立てて実施することが望まれる。 	<p>●市民、学生、地権者、若手の会に対し、普天間飛行場跡地利用について学習する機会を提供し、将来のまちづくりにおける人材育成に繋げる。</p>	<p>●大学生による企画提案の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄国際大学と連携し大学2年生の2クラスに協力いただき、演習授業をとおして、まちづくりを考えるための進め方や方向性を示しながら、発表を実施することができた。 <p>●まちづくりについて継続して考える機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月から約2か月間の演習授業をとおして、普天間飛行場の跡地利用と周辺市街地におけるまちづくりについて、大学生が企画提案を行う機会を設けることができた。 ・大学生による市民、地権者、若手の会等に対してまちづくりに関する発表を行い、大学生がまちづくりについて考える講座を継続して開催することができた。 	<p>●沖縄国際大学とのコラボの在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、演習授業実施の際にはコンサルタントが極力出席してグループワークをサポートすることが望ましいが、役割分担については改めて検討が必要である。 ・演習授業においては、企画作成に加え発表に向けた準備を十分に行うことが望ましい。 <p>●企画内容の実現に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した大学生から、企画した内容を実現させたいとの意見が挙げられたことから、次年度は企画提案発表会後に、最も実現性や独自性が高い企画発表を行ったグループに対して、企画内容の実現に向けて市と大学が連携し、支援の実現に向けた検討を行うことが望ましい。

項目（令和6年度調査）	令和5年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和6年度取り組み方針	本調査における成果	今後の課題
普天間飛行場の跡地内の地権者及び跡地周辺の市民への取り組み 先進地視察会及び受入れ先勉強会等の企画・開催	<p>●学生との連携のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場返還後のまちづくりについて、将来を担う学生のまちづくり人材育成が必要と考える。本視察で習得した知識をもとに、行政や市民・企業が宜野湾市内外の学生と連携したまちづくりの取組みについて検討を進めていくために、学生がまちづくりに関われる場を今後設けていく必要がある。 	<p>●先進地のまちづくり事例を習得し、知見の習得を図る。</p>	<p>●大規模公園に導入する機能、施設の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下空間の有効活用方法、有事の際における公園施設の機能転換等、今後大規模公園に導入する機能の具体的な検討を行うにあたっての考え方を学ぶことができた。 <p>●周辺市街地を含めた地域内交通の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代型交通の導入により地域の交通環境の改善や地域全体の活性化に繋がった事例を視察することで、普天間飛行場跡地のまちづくりにおける周辺市街地を含めた地域内交通の有効性について学ぶことができた。 <p>●VRを活用した意向醸成の有効性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VR技術を用いた普天間飛行場跡地利用計画を実際に体験することで、資料や図面の説明だけでは伝わりづらい具体的なイメージが容易に理解でき、今後の意向醸成におけるVRの有効性について学ぶことができた。 	<p>●VR等の技術を用いた意向醸成のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和9年度予定の「全体計画のとりまとめ」に向けた意向醸成活動を進めていく必要があることから、本視察で体験したVRのシステムを活用した勉強会の開催を検討する。
	<p>●情報発信の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示スペースの規模を拡大し、多くの方が落ち着いてパネルを閲覧することができるようにする必要があり、今後さらに情報発信の機会を作り、さらに多くの方が閲覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。 	<p>●跡地利用に関する情報や取組みについて周知を図るため、全世代を対象としたパネル展を開催する。</p>	<p>●展示スペースへの多くの人の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示スペースの床に宜野湾市全体の航空写真を敷くことで、3階から来店した方の目にも留まり、パネル展示会場への多くの人の誘導とパネル閲覧に繋げることができた。 <p>●来場者の普天間飛行場跡地利用計画への興味・関心の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の跡地利用計画について本パネル展で初めて知ったという方に対する興味・関心を促すことができた。 	<p>●更なる情報発信の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルでの情報発信のほかに、巨大航空写真に普天間飛行場の大きさや滑走路の距離を記載するなどの情報を盛り込むことで、普天間飛行場の規模を体感できるようにする等、更なる情報の充実を図り、多世代の方に対して興味・関心を促す工夫が必要となる。 <p>●アンケート回収率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数の来場者がパネルを閲覧している一方で、アンケートの回答数が少ない結果であり、アンケート回答に負担を感じる方が多いことが理由と考えられる。そのため、今後はアンケート回収率向上に向けて、シールで簡単に回答できるようにするなどの工夫が必要である。
	<p>●市民が跡地利用のまちづくりに興味・関心を持つための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年は、意向醸成に向けた取組み内容および「全体計画の中間とりまとめ」の周知を中心に誌面構成を行っている。今後は、跡地のまちづくりに向けた現在のスケジュールを分かりやすく誌面で示していくことで、市民へ跡地利用のまちづくりに向かって着実に進むことを感じていただき、取組みへの興味・関心を図ることが必要である。 	<p>●市民に対し、各種取組み内容を分かりやすく伝え、跡地利用への興味・関心の向上を図る。</p>	<p>●跡地利用のまちづくり意向醸成に向けた取組みに関する情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のまちづくり醸成を目的に実施した「まちづくり講座」「パネル展」等に関する内容等を掲載し、市報ぎのわん（4ページ分）として全世帯へ発信することができた。 	<p>●市民が跡地利用のまちづくりに興味・関心を持つための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲載した取組みや、次回の予定について市民の興味・関心を促すために、QRコードなどを活用して広く情報を発信する工夫が必要である。

項目（令和6年度調査）	令和5年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和6年度取り組み方針	本調査における成果	今後の課題
普天間飛行場周辺の市民への取り組み 市内各種団体に対する跡地利用計画検討に関する情報発信及び広報	<ul style="list-style-type: none"> ●個別意見交換会の継続した開催 <ul style="list-style-type: none"> ・今回は2団体と意見交換を行ったが、今後も継続して他団体との意見交換を継続し、市民目線での跡地利用計画に対する機運を少しずつ高めていく必要がある。 ●新たな若い世代の人材掘り起し <ul style="list-style-type: none"> ・今後、返還後のまちづくりの担い手となる若い世代の人材掘り起しを進めていく必要がある。 ●共通する意見として発信しやすい項目の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・団体によっては、各団体の集合体である場合もあるため、意見集約を行うにあたっては、共通する意見を発信しやすい項目を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内各種団体と意見交換を行い、継続したまちづくりの議論に繋げていき、今後のまちづくりのけん引役となる人材の掘り起こしを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●個別団体との意見交換による、市民目線でのまちづくりの課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・商工会青年部、青年会議所の2団体と個別の意見交換を行い、各団体に対して普天間飛行場跡地利用計画の内容周知を図るとともに、安全、安心なまちづくりに対する各団体の考える課題が明確になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな若い世代の人材掘り起しと抜擢の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに個別団体との意見交換を実施した団体に対し、返還後のまちづくりの担い手となる若い世代の人材掘り起しと抜擢の仕組みづくりについて、検討を進める必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の普天間飛行場跡地に関する興味・関心を促す取組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・跡地利用計画のプロモーションビデオは、小学校高学年～中学生向けに制作していたため、低学年には跡地利用計画部分の内容が少し難しいと感じた。小学校低学年向けのプロモーションビデオの制作について検討が必要と考える。 ・過年度までは児童センターや小学校での開催が主だったが、より多くの児童・生徒に対し普天間飛行場跡地のまちづくりについて周知を図るため、校長会等で中学校にも積極的に声掛けを行う。 ●市民の継続的な普天間飛行場跡地に関する興味・関心を促す取組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日に開催することが想定されるため、出前講座の本番までに保護者向けのチラシを事前に配布するなど、多くの保護者が授業参観に参加いただけるよう周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒向けに制作したプロモーションビデオ（PV）をきっかけとした、普天間飛行場跡地のまちづくりに対し興味・関心を持つようなプログラムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●普天間飛行場跡地に関する興味・関心を高める取組みの効果発現 <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒へ向けて制作したプロモーションビデオを活用することで、普天間飛行場跡地利用に関する興味・関心を高めることができた。 ・小学校6年生と、4年生の児童に対し出前講座を開催し、学年別に講座の内容を変更することで、適切な難易度で楽しみながら普天間飛行場跡地のまちづくりについて考えることができた。 ・児童センターと小学校の授業参観日に開催することで、保護者も児童と一緒に講座に参加することができ、普天間飛行場跡地のまちづくりについて考えてもらうきっかけづくりができた。また、参加した保護者からも「楽しかった」との声が寄せられ、市民に対しても普天間飛行場跡地利用計画に関する興味・関心を促すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●周知拡大の対象に向けた取組みの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・過年度に実施した小学校に対し、次年度以降も積極的に出前講座の案内を行うとともに、これまで出前講座を実施していない小学校に対しては、早い段階から出前講座の案内を行う。

項目（令和6年度調査）		令和5年度調査で挙げられていた 課題・方向性	令和6年度の実施方針	本調査における成果	今後の課題
普天間飛行場周辺の 市民への取り組み	出前講座低学年用 教材PV制作	—	●跡地利用に関する、低学年にもわかりやすい内容のプロモーションビデオを制作する。	●PVを活用した普天間飛行場跡地利用計画に関する興味・関心の向上 ・小学校高学年・中学生に向けて制作した普天間飛行場跡地利用計画のプロモーションビデオを低学年の児童にもわかりやすい内容にリメイクし、出前講座等で活用することで、多くの児童に対して普天間飛行場跡地利用計画に関する興味・関心を高めることができた。	●PVの定期的な見直しと更新について ・普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けて、計画内容の変更や時流と合うように、適切な時期にPVの内容更新を行う。
	有識者への意見 聴取	●継続した議論の必要性について ・意向醸成活動を進めるにあたって、今後も継続して意見聴取を実施し、方向性、手法等に関する検討を進めていく必要がある。 ●有識者の新たな人選、追加について ・跡地利用計画は令和5年度の行程計画の更新を踏まえて、具体的な計画策定に向けて取り組まれる予定である。そのため、合意形成に関しても現有識者のまま継続して意見をいただくのではなく、新たな人選を行うなど計画の具体化に対応して意見聴取を進めていく必要がある。	●専門的な知見を踏まえた提言・助言等をいただき、地権者等関係者の着実な意向醸成活動に繋げていく。	●次年度の実施にあたっての留意事項の明確化 ・以下の内容に関する取り組みの方向性や考え方についてメールや対面による意見を伺うことができ、次年度の意向醸成活動を進めていくにあたり、留意すべき事項が明確となった。 ・若手の会の再構築に向けた留意点 ・当事者意識をもつためのきっかけ ・若い世代の人たちとの継続した関わり方	●有識者の新たな人選、追加について ・普天間飛行場跡地利用計画は令和5年度の行程計画の更新を踏まえて、より具体的な計画策定に向けて検討が進む予定である。そのため、合意形成に関しても現有識者のまま継続するのではなく、計画内容に即して新たな人選を行う等、柔軟に意見聴取を進めていく必要がある。